

美作国の織と色彩

出展者プロフィール

梅川知子 (うめかわ・ともこ)

染織家(藍染) 久米郡美咲町
1994年、第49回新匠工芸展入選。1996年から5年間、岡山高島屋「美作の手仕事」展出品。絞り染めの国際会議である「国際絞り会議」への参加、海外展への出品など、染織に関する国際交流も積極的に行なう。2008年、新匠工芸会会友となり、以後毎年新匠工芸展出品。

金田美智子 (かねだ・みちこ)

染織家(手描染) 津山市
1970年代、友禅染のテキスタイルデザインに携わり、1975年から染織を始める。木綿など自然素材を中心に、布を「着る」「飾る」「表現する」に拘って手描染を各地で展示販売。ワークショップなども開催。津山市西新町で染織工房「うき草や」運営。

加納容子 (かのう・ようこ)

染織家(草木染) 真庭市
女子美術短期大学で染織を学ぶ。帰郷後実家店頭にかけた自作の暖簾が評判となり、現在勝山町並み保存地区に作家デザインによる95枚の暖簾がかけられている。2008年「のれんによるまちづくり」が第42回SDA賞特別賞受賞。真庭市勝山で「ひのき草木染織工房」主宰。

築山良恵 (つきやま・よしえ)

染織家(藍染) 勝田郡奈義町
1988年、藍染の習得を始める。1994年、那岐アートクラブ結成。1996年から15年間、奈義町現代美術館で那岐アートクラブ展示会開催。1996年ニューヨークで、1998年と2000年にイギリスでグループ展参加。2000年イギリスで個展。年数回の展示会を通じて作品を発表。

原田豊美 (はらだ・とよみ)

染織家・織作家 久米郡美咲町
1986~87年、さおり織を学び、1990年渡英し手紡ぎを研究。1992年、美咲町に廃校を活用したアーツ&クラフツビレッジを開設。生活をテーマにした作家活動を展開。手紡ぎ・草木染めを中心とした染織指導や展示を通じて手仕事のたもたらす豊かな暮らしを提案している。

山形晃子 (やまがた・あきこ)

織作家 津山市
兵庫県伊丹市で織を学ぶ。現在は裂き織り(古くなった布などを裂くなどして横糸として織込み再生利用する織物)で、バッグなどを制作。素材に皮紐なども使い、独特の風合いと趣のある作品を特徴としている。

日名川茂美 (ひなかわ・しげみ)

織作家(作州絣) 久米郡美咲町
2007年、作州絣復元のため鳥取短期大学絣研究所に特別研究生として入所。2012年、作州民芸館で絣の織り人養成講座開催。「作州絣」正式製造者として岡山県に認定される。絣制作に関わる和綿の栽培も行なうなど、作州絣を取り巻くさまざまな文化の継承にも積極的に取り組んでいる。

倭文地区歴史と文化を語る会

織制作(倭文織) 津山市
2001年発足。倭文織や倭文地区の遺跡などの調査研究と紹介の活動を実施。2005年、倭文織工房開設。徳島、茨城にて楮蒸しや織の技法などについて学ぶ。倭文織は実物も、技法も失われ幻の織物と呼ばれており、すべて史料から推測するしかなく復元は非常に困難であるが、会では様々な文様を織り出すことなどを楽しみながら取り組んでいる。

お よそ1300年前、あるいはそれ以前から、わが国に倭文織と呼ばれる織の技法が存在していたことを当時の史料から知ることができます。津山市倭文(旧久米町倭文)は、平安時代に編まれた和名類聚抄にも見られる地名で、その名のとおり、倭文織の生産拠点であったと考えられますが、今この地で、現物も技法も失われてしまったその織物を再生しようという動きが生まれています。また、同じように失われようとしていた作州絣を復活させ伝えていこうとする動きも生まれています。

私 たちの生活に欠かせないものとして、「衣」「食」「住」の三つがあげられますが、「衣」に関して私たちはもはや伝統的な様式を日常生活の中にほとんど残していません。それは「食」や「住」とは違って、「衣」が私たちの身体的振る舞いと常に強く結びつき、同時に私たち自身の為人(ひととなり)を常に表現し続けるものであり、時代により変化する生活のあり方に大きく左右されるからだと考えられます。それを時代の要請と言うなら、抗うことはできないのかもしれませんが、しかし、少なくとも、私たちが何を身につけ、そこにどのような色や文様を与え、そしてそれを身につけることで何を思い、何をなしてきたのか。それを知り、伝えることは、私たち自身が何ものであるのかを知ること、未来へその思いを伝えていくことにつながります。

過 去から現在までの美作の織と染の素材と技法、そうして作り上げられた品々が、城東むかし町家という、同じく長い時間の中でさまざまな技法と意匠とを取り込んできた象徴的な空間で出逢います。そこは、長い時間をかけて積み上げ、組み替えられてきた、私たちの生活様式のある重要な断面が、鮮やかにその切り口を見せてくれる場となります。

技 術的な素晴らしさや美しさをご覧いただくのももちろんのこと、ぜひこの機会に、それを織り、染める人々が一本一本の糸に込めている思いに耳を傾けてみてください。いつか身につけた何かに袖を通したときのワクワクする気持ち、嬉しい気持ちを喚び起こしてみてください。これらはひとつながりのものであり、そのつながる思いは、長い時間の中で連続と受け継がれてきたものなのです。

これから時代がどのように変化しても、私たちの日常がそのような思いで満たされ、紡がれ続けていかなことを。



城東むかし町家外観



主屋と中庭

出展者滞在カレンダー

	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
ワークショップ	◎	◎						◎	◎	◎
梅川知子	○							○	○	
加納容子					○					
金田美智子					○					
築山良恵						○				
原田豊美	○									
日名川茂美	○	○				(滞在日は実演を行う予定)			○	○
山形晃子				○						
倭文織保存会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

倭文織ワークショップ開催

1300年前に美作国で発展を遂げたとされる幻の織物「倭文織」復元制作の体験講習。

開催日：12月15日(土) 16日(日) 22日(土) 23日(日) 24日(月・祝)

時間：9:30~11:00 13:30~15:30

指 導：「倭文地区歴史と文化を語る会」会員の皆さん 参加費：200円



美作国建国1300年
美作国建国1300年記念プレス事業
2013年は美作国が建国されて1300年に当たり、美作地域で記念事業が展開されます。